

14.2h

45□

大正七年度愛知縣水產試驗場業務概報



始



14₂₁-45



本場ノ報告書類ハ左ノ三種ニ分チテ發行ス

一 年度別業務概報

二 年度別ニヨル各種業務ノ梗概ヲ記載ス

三 試験報告

各種試験調査ノ結了ヲ俟チテ詳細ニ記載ス

四 簡易報告

一般漁民ニ周知セシムル爲メ平易通俗ニ記載ス

大正
8. 8. 9
内交

目次

(イ) 漁 務 部

- 一 漁場探検.....一
- 二 鯉釣漁業試験.....二
- 三 傳習生養成.....六

(ロ) 製 造 部

- 一 蛸利用試験.....七
- 二 蝦水煮罐詰.....八
- 三 「アンチヨビ」製造試験.....九
- 四 雑 試 験.....九
- 五 傳習生養成.....一一
- 六 短期罐詰講習生養成.....一二

漁船—乗組員—期間—漁場—餌料—經過成績—出漁試験日誌

蛸大和煮罐詰—蛸水煮罐詰

鰯(トマトソース)漬罐詰—生海苔佃煮罐詰

(ハ) 養殖部

- 一 鹹水池中養殖試験……………一三
- 二 國庫補助海魚防寒試験……………一四
- 三 鹹水池天然餌料蕃殖試験……………一四
- 四 委託試験……………一五

海苔養殖委託試験——牡蠣養殖委託試験——蛤、網養殖委託試験——板浦牡蠣養殖委託試験

- 五 養殖業實地指導……………一六
- 六 傳習生養成……………一六

(ニ) 調査部

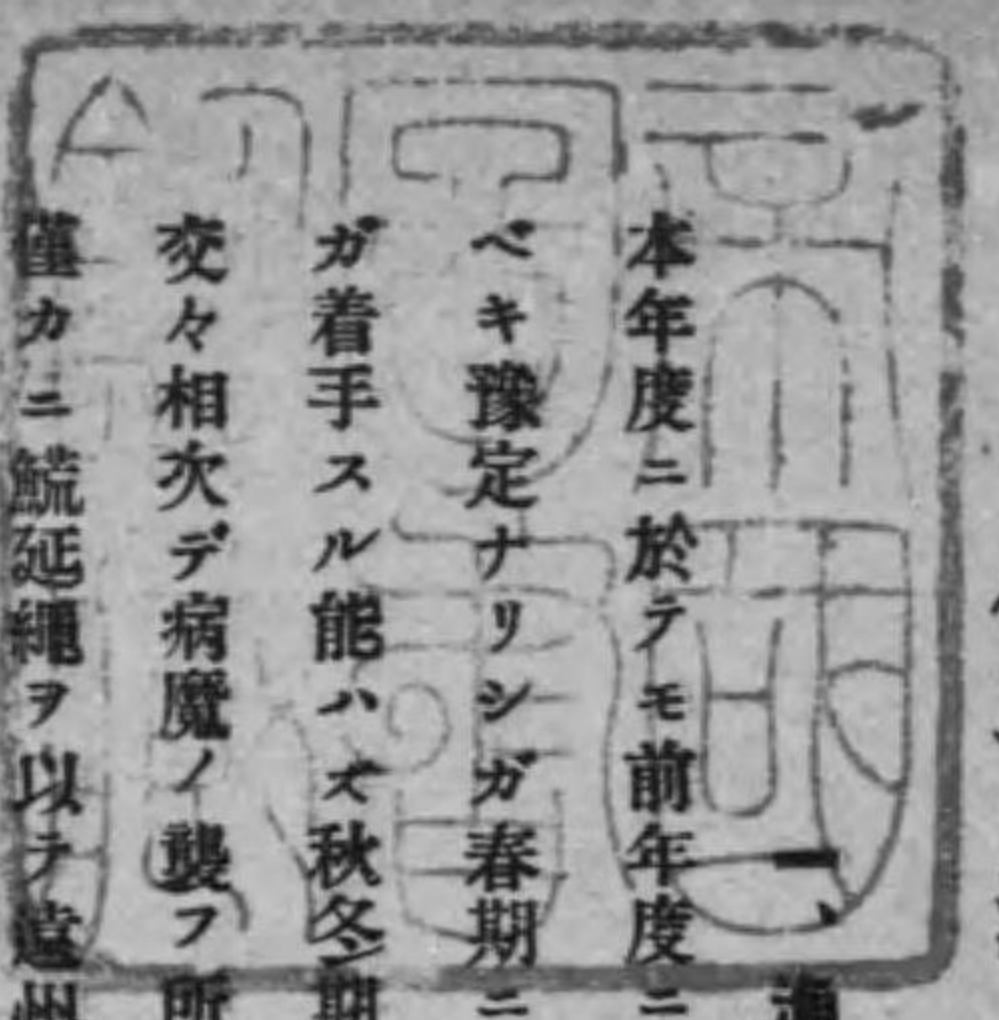
- 一 打瀬網漁業調査……………一七
- 二 伊勢灣海洋調査……………一七
- 三 魚類特ニ鹹水魚ノ生理遺傳ニ關スル調査……………一七
- 四 あをさニ關スル調査……………一七

大正七年度愛知縣水産試験場業務概報

(イ) 漁撈部

漁場探検

本年度ニ於テモ前年度ニ繼續シテ遠州灘ニ於ケル既定海區第三區及第四區ノ秩序的探査ヲ漸進施行スベキ豫定ナリシガ春期ニ於テハ次年度ニ於ケル本場業務ノ改革計畫並ニ鯉釣試験準備ニ忙殺セラレ之ガ着手スル能ハズ秋冬期ニ於テハ諸物價昂騰ノ影響著シク經費ニ不足ヲ生ジタルノミナラズ擔當職員交々相次デ病魔ノ襲フ所トナリ之ガ事業ニ支障ヲ生ジ遂ニ其ノ目的ヲ達セズ漸ク大正八年二月ニ於テ僅カニ鮪延繩ヲ以テ遠州灘ニ於ケル鮪漁場探検ヲ數回施行セルニ過ギザリキ今其ノ概況ヲ記サン鮪ノ如キ深海性底着魚ニ於テモ其ノ年ノ海況ニヨリテ多少ノ移動棲息多寡アルモノノ如シ本年ノ如キ暖流ノ近岸ニ壓迫シ來リ水温一般ニ例年ヨリ二度乃至四度高キ傾向アリシ爲メニ非ラザルカ例年ノ棲息場ニ於テ更ニ釣獲ナク本場鮪延繩ニ於ケル漁場探検ニ於テハ充分効果ヲ奏セズ一般民間ノ鮪釣漁業モ不漁ニ了リタリ本場ノ探検ニ於テハ昨年ニ引續キ漸次深海新漁場ニ操業シタルガ好果ヲ得ズ鮪四、五尾ノ釣獲ニ過ギズシテ泥河豚ノミ多ク例年鮪漁場ニ於テ饒多漁獲シ得ル「ゆめかさこ」「つのだめ」ノ如キ



ハ殆ド漁獲スルヲ得ザリキ而シテ面白キ現象ハ從來余リ見聞セザル伊勢國神島六十五湮沖合ノ淺海ニ於テ鯨ノ漁獲ヲ得タル事ナリキ要スルニ本年ニ於ケル鯨棲息場ノ移動ハ大體ニ於テ水温ノ影響ニヨルモノ、如キモ尙ホ他ニ探査考究ヲ要スベキ誘因アルベシ

二、鯨釣漁業試驗

本試驗ハ本縣ニ於テハ不振ノ狀態ニアル遠洋漁業ノ啓發ニ資センガ爲メ大正四年度ヨリ繼續施行シテリシニ其ノ成績顯著ニシテ斯界ノ注目ヲ喚起シ將來縣下ノ重要ナル漁業タルヲ確知セシムルニ至リ之ガ事業ヲ經營セント志スモノ漸次出現スルニ至レルヲ以テ本場ハ一層之ガ誘掖指導ニ努ムルニハ本年度ニ於テモ前年度ト全一ノ試驗方法ヲ以テ之ガ事業ヲ續行セリ今經過並ニ成績ノ概要ヲ述フベシ

一、漁 船

漁船ハ從來ノ方法ニ從ヒ三重縣下ヨリ借上グ之ガ借入ニ關シテハ年々多大ノ苦心ト犠牲トヲ拂ハザルベカラズ本年度ニ於テモ好漁機ニ際會シテ豫定ノ借入漁船ニ蹉跌ヲ來シ好機ヲ逸スルノ遺憾ヲ反覆シタリ而シテ漸ク六月下旬ニ入りテ肩巾九尺總噸數十一噸二十馬力石油發動機付和洋折衷型漁船ニシテ平均一時間七湮ノ航走力ヲ有スルモノヲ借入ル、ヲ得タリ

一、乘 組 員

前年ニ倣ヒ三重縣下ヨリ本漁業ニ卓越セル漁夫十名ヲ借入レ重要位置ニ就カシメ縣下練習漁夫六名ヲ

上記ノ漁夫間ニ適宜割當テ素人漁夫ノ練習ニ努メタリ

一、期 間

紀州海及遠州海ニ於ケル鯨漁業ハ年ニヨリ多少ノ差異アレドモ早ケレバ四月下旬ヨリ晚クトモ五月中旬ニハ開始セラレ、而シテ五月中又ハ六月中ニ於テ必ズ一、二回ノ盛漁ヲ呈スルモノナリ故ニ本試驗ニ於テモ此ノ機會ヲ逸セザラントシ盛漁期前漁船借入ニ努メシモ盛漁時ニ際シテハ漁船借入ヲ豫約シタルモノモ之ガ履行ヲナサズ大ニ支障ヲ生ゼリ而シテ本年度ハ諸物價昂騰ノ影響著シク消耗品費並ニ餌料費等ニ於テ豫算經費充分ナラズ最初ノ豫定ヲ變更シ六月二十六日ヨリ八月五日ニ至ル僅カ四十日間從漁セリ

一、漁 場

經費並ニ船體ノ大サノ關係上土佐沖合又ハ伊豆七島附近ニ好漁アルヲ聞知スルモ出漁スルヲ得ズ從來ノ紀州海及遠州海巨岸六七湮迄ノ沖合ヲ漁場トセリ

一、餌 料

三重縣外沿海東部ニ於ケル鯨釣餌料ノ供給地ハ志摩國の矢灣及同英虞灣ニシテ稀ニ五箇所灣ニ於テ求ムルコトアリ本年ハ從業期間短期ナリシト根據地濱島港ヲ主トセルヲ以テ之ガ餌料ハ英虞灣内ニ於ケル間崎及濱島ニ於テ需メタリ

一、經過成績

本年紀州海及遠州海ニ於ケル鯉漁況ハ五月一日初漁アリシ以來斷續的ニ多少ノ漁獲アリテ初旬ハ稍々活氣ヲ呈シ中旬ニ於テハ稀ニ二、三百尾ヲ釣獲セルモノアルノ外一般不漁ナリシガ下旬ニ入りテ漁況恢復シ大王崎方面ニ於テ日々二百尾内外ヨリ七、八百尾ノ漁事アリテ漸次好況ヲ呈シ六月ニ入りテ益々盛況ヲ現出ス漁場ハ大王崎方面ニテ巨岸十二、三湮乃至二十四、五湮ノ地點ニ於テ連日多キハ一隻千五百尾少キモノモ三百尾内外ノ漁事ヲ持續シ本年ニ於ケル當方面ノ盛漁期ニ入りタリ本試験ハ此間漁船借入ニ蹉跌ヲ來シタル爲メ下旬ニ至リ漁業稍閑散ナラントシテ借入ヲ了シ六月二十九日第一回ノ出漁試験ニ從ヒ志摩麥崎東嶺北十三湮ノ地點ニ於テ八百尾廻ノ鯉九十尾ヲ釣獲セルニ開始セリ七月ニ於テハ漁況斷續不定ニシテ好漁船ニテハ一日一隻小鯉二千尾餘ヲ釣獲シ來ルモノアルニ更ニ釣獲スルコトナク歸港スルモノ數多アル状態ニテ漁場一定セズ魚群ノ出沒變化著シクシテ當業者ハ魚群探索ノ頗ル困難ヲ感テタリ然モ魚體モ一般ニ小トナリ時ニハ一貫匁以上ノ大鯉ヲ交アルコトアレドモ稀ニハ大部分二百匁乃至三百匁廻ノ小鯉ヲ以テ充サル、アリ且ツ例年ノ餌料欠乏期ニ入り出漁者ノ困苦益加ハレリ本試験ニ於テモ經費ニ限リアリ制限期間ノ切迫スルアリ高價ナル餌料ヲ漸ク調達シ出漁セルニ更ニ好魚群ニ會セズ偶々鯉ノ大群ニ會スルモ餌付不良ノモノニシテ更ニ釣獲スルヲ得ズ又ハ數日出漁ヲ見合ハス等苦心スル所少ナカラザリシガ七月中ニ於テ八日間ノ出漁ニ從事シ三日間好釣ヲ得タリ八

月ニ入り出漁ノ機ヲ期待セシガ豫期ノ機會ヲ得ズシテ終了ノ己ムナキニ至レリ、爰ニ附記セザルベカラザルハ縣下練習漁夫ノ成績ナリ本試験ノ最初ヨリ之ニ從事セルモノ二名アリシガ是等ノ技術習熟ノ成績ハ初年並ニ次年ニ於テハ技巧上著シク進境ヲ認メザリシガ三年目並ニ本年ニ於テハ三重縣下ヨリ備入レシ本漁業者ニ立交リテ何等遜色アルヲ視ザルニ至レリ而シテ本試験ニ於テ一年二年ト云フモ之ガ從事スル期間ハ僅カニ二ヶ月乃至二ヶ月半ニシテ然モ該期間中ニ於テモ實業者ノ如ク連續出漁スルモノニアラズシテ一期間中ニテモ實際操業ニ從事スルハ十日乃至十五日内外ナルニ斯ル成果ヲ擧ゲ得ルヨリ以テセバ本縣ノ如キ本漁業ニ全々素八ナル漁業者ニ於テモ一漁期間(自五月至九月約五ヶ月間)充分之ニ習熟セバ次年ヨリハ立派ニ三重縣下該漁業者間ニ伍シテ本漁業經營ハ左ノミ難事ニアラザル事ナリ

試験日誌ノ梗概ヲ示セバ左ノ如シ

月日	天候	漁場	漁具	表面比重	海水比重	流速	方向	種類	水深	平均ノ重	種類	數量	價格	備考
六月廿九日	B. SW 1	①	6	21.5	28.5	W	全	全	全	全	八〇日	六	六、四〇〇	午前中ニ釣獲シ其後數回魚群ニ會スルモ餌付不真ナリキ
七月五日	R. E. 1	②	5	26.6	28.5	W	全	全	全	全	六〇日	六	六、四〇〇	午前午後魚群ニハ數回會スルモ餌付不真釣獲ヲ得ズ

七月八日	七月十日	七月十六日	七月十八日	七月廿二日	七月廿八日	七月三十日
B. S.1	B.C S.1	C. SE.1	C. —0	B. S-1	B. S-1	B. S-2
㊦	㊥	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤
A.M. 7-0	A.M. 8-18	P.M. 0-15	A.M. 8-25	A.M. 7.25	A.M. 6-25	A.M. 8-20
10-15	11-20	2-40	9-0	P.M. 6-20	11-20	P.M. 1-35
3	2	6	2	6	2	3
24.1	25.1	22.7	24.1	25.7	25.3	27.2
23.6	24.1	23.5	27.2	26.2	25.5	26.5
1,02637	1,02591	1,02625	1,02503	1,02597	1,0601	1,02587
SE 緩	SSE 全	SW 速	ESE 緩	SSW 速	ESE 緩	S 速
全	全	全	全	全	全	全
七〇〇	二〇八	五九三	七九〇	四九九	一七三	三〇〇
午前中會シ餌付良好ニア好獲シ餌料欠乏引上ケ	再三魚群ニ會スルモ何レモ餌獲テ釣獲テ得ズ	餌付不真釣獲テ得ズ	小鯉ノ大群ニシテ餌付良好ナリ	魚群ハ夥多ナルモ餌付不真	小鯉小群ナルモ餌付極メテ良好ニシテ餌料欠乏引上ケ	魚群ヲ觀ルモ餌獲モノナリ

漁撈傳習生ハ規定教授要目ニ準據シ漁撈學、船舶運用術、航海術及造船學大意其他漁業並ニ航海上須要ナル事項ヲ傳習シ實技ノ傳習ハ所屬船愛知丸及鯉釣試驗船等ニ乗込マシメ漁業ノ智識ヲ授ケタリ條了生ノ氏名左ノ如シ

三、傳習生養成

知多郡横須賀町 石 濱 爲 吉

(ロ) 製造部

一、蜆利用試驗

本縣下沿岸ヲ通テテ饒産セラル、蜆ノ利用増進ノ目的ヲ以テ蜆大和養罐詰蜆水養罐詰製造試驗ヲ施行セリ今其ノ概況ヲ述ブレバ左ノ如シ

(イ) 蜆大和養罐詰

原 料

原料ハ知多郡日間賀島村及渥美郡高師村大字大崎ヨリ合計二十四石六斗六升ヲ購入シテ供試材料トセ

製 造 方 法

原料到着后ハ海水中ニ一夜间放養シテ含有スル砂泥ヲ充分吐出セシメ後除殻ヲ行ヒタリ除殻法ハ生剝ヲ可良ナリトスルモ從業者不熟練ノ爲養熟法ニヨリタリ養熟ハ蒸釜ヲ使用シ其ノ蒸養セル原料ハ精肉ヲ採集シ水洗ヲナシテ汚物ヲ除去シ豫メ二重釜中ニ醬油一斗砂糖一ルル少量ノ割合ニテ配合シタル調味液ノ沸騰セル中ニ入レテ調味ヲナシタリ斯クシタルモノハ翌日再ビ垂汁ニ調味材料ヲ追加シタル

液中ニ於テ二番煮ヲナシ卷縮式一封度平罐及堅罐ニ肉詰シテ封鎖ヲナシタリ給熱八〇封度一時間ニテ脱氣ヲ行ヒ五封度一時間ノ殺菌ヲナシテ製了ス

(ロ) 蜆水煮罐詰

原料

知多郡日間賀島村産ニシテ大ナル蜆ヲ撰用セリ

製造方法

蜆水煮罐詰ハ前年度試験ノ結果ニ鑑ミ試験的ニ小數ノ試製ヲナシ研究ノミニ止メタリ之レガ試験方法ハ生貝ヲ小刀ニテ除殻シ生肉壹斗ニ對シ食塩六合ノ割合ニテ暫時塩漬シ後清水中ニテ數回洗滌シテ洗水ノ汚濁セザルニ至リテ肉詰ヲナシ水ヲ注加シテ給熱ヲ行ヒタリ

二、蝦水煮罐詰

本縣下打瀬網ニテ多獲セラル、赤蝦其他ノ蝦類利用増進ノ目的ニシテ大正五年度ニ於テ製品ヲ米國桑港市場ニ試賣シ相當成績ヲアゲタルト且ツ本年度ハ物價騰貴ニヨリ豫算ノ不足ヲ告グルニ至リタレバ主トシテ製造方法改善ノ研究及調査ヲナシタリ

原料

伊勢海ニ於テ漁獲シタル赤蝦及さる蝦ヲ主トス

製造方法

原料ハ豊濱町ヨリ購入シタル爲第一回ハ當業者ニ依頼シテ水一斗ニ食塩五合ノ稀薄塩水中ニテ煮沸後運搬セシメ第二回ハ氷詰トナシ生ノ儘運搬セシメタリ前者ハ頭付ノ儘煮熟シタル爲除殻后脊部ニ内臓及ビ砂ノ殘存スルモノアリタレバ後者ハ前者ニ鑑ミ生ノ時頭部ト共ニ内臓ヲ摘去シ稀薄塩水中ニテ煮熟ヲナシ一尾ヅ、除殻ヲ行ヒタリ除殻ヲ終リタル蝦ハ稀薄ナル酒石酸液中ニ一分間浸漬シ蒸釜中ニ入レテ蒸煮ヲナシタリ

肉詰ハ卷縮式一封度平罐ニ硫酸紙ヲ敷キ其ノ中ニ入レテ封鎖ヲナシ沸騰中ニ於テ一時間加熱シテ脱氣ヲナシ全ジク沸騰中二時間殺菌ヲナシテ製了ス

三、「アンチモビー」製造試験

曩ニ神奈川縣水産試験場ガ倫敦ヘ試賣シタル結果ニヨレバ魚体ノ大サ五吋二分ノ一乃至六吋ノモノナルヲ要スルガ故ニ本年度ハ大形ノ鯉ヲ原料トシテ試製スルノ豫定ナリシモ遂ニ適當ナル原料ヲ得ルニ至ラズ爲ニ試験ヲ施行シ得ザリシヲ遺憾トス

四、鯉試驗

(イ) 鯉「トマトソース」漬罐詰

本縣ニ於テ多産セラル、大羽鯉ノ利用法トシテ目下世ノ嗜好ニ適シ實談ヲ博シツ、アル「トマトソ

スレ漬罐詰ノ豫備的試験ヲナシタリ

原料

鯔刺目打瀬網ニテ漁獲セラレタル大羽鯔ヲ原料トス

製造方法

鯔ノ頭ヲ勿ネ内臓ヲ去リ稀薄塩水中ニ投テ血抜洗滌ヲナシ母氏十五度ノ塩水中ニテ約一時間浸漬シテ塩味ヲ附與ス斯クシタルモノハ油漬及肉詰ヲナシ肉詰ヲ終レバ別ニ製シタル「トマトソース」ヲ注加シテ鐵付ヲナシタリ給熱ハ沸騰中一時間加熱シテ脱氣ヲナシ殺菌ハ五封度一時間半行ヘリ

(ロ) 生海苔佃煮罐詰

本縣下ニ於ケル紫菜ノ産額ハ年ト共ニ増大スルノ状態ニアルモ偶々其採摘製造ニ際シ天候不良ニ遇ヒ腐敗スルコト少シトセズ之レガ利用方法講究ノ目的ヲ以テ該試験ヲ施行セリ

原料

知多郡篠島村海岸ニテ採集セル紫菜及青海苔ヲ供試材料トセリ

製造方法

海苔ヲ綺麗ニ洗滌シ清水中ニ浸漬スルコト一夜ニシテ塩分ヲ除去スルト共ニ軟化セシメ而シテ粗板上ニテ細切シ左記配合ニテ調味スルコト二時間半ニテ風味色澤適度ヲ得ルニ至リテ製了ス製品ハ最モ良

好ナルモノヲ得タリ

配合割合 紫菜 六百匁

青海苔 六百匁

醤油 一升一合

砂糖 百三十匁

糖蜜 一合

五、傳習生養成

本場水産傳習生規定ニ基キ六月一日ヨリ左記三名入場シ十一月三十日修了セシメタリ

碧海郡新川町

松田三郎

三重縣飯南郡伊勢寺村

杉本彰

渥美郡赤羽根村

河合員

學課

水産製造ノ一般ハ「水産製造論」罐詰製造ハ「最新罐詰製造全書」ヲ教科書トナシテ教授セリ

實習

各種空罐製作及半田鐵亞鉛水ノ製作ハ勿論汽罐汽械其他機械類ノ取扱並ニ左記水産製造其他ノ實習ヲ行ハシメタリ

磯の花

魚煎餅

生海苔佃煮

和布佃煮

小蝶類味付

「トマトソース」

蝦 あられ

蝶螺大和煮罐詰

「トマト」エツキス

桃砂糖漬罐詰

みる菓子

鯉燻製「トマトソース」罐詰

鯉 開 乾

石 鹼

「フイツ」シユボール「罐詰」

鯉大和煮罐詰

鯉燻製「トマトソース」罐詰

鯉「トマトソース」罐詰

鯖「トマトソース」罐詰

鯖「トマトソース」罐詰

鯉大和煮罐詰

見 學

傳習生ハ斯業、調査、實習ノ目的ヲ以テ左記工場ニ出張セシム

知多郡豊濱町

水産工業株式会社

同 同

倉光罐詰製造所

名古屋市南区熱田

魚半合資會社

六、短期罐詰講習生養成

本縣下ニ於ケル鯉漁業ノ復活ニ伴ヒ各地ニ於テ罐詰業ノ勃興ヲ見隆盛ヲ來スニ至レリ然ルニ該技術員拂底ニシテ當業者ノ憂慮スル處ナリシカバ本場ハ臨時ニ罐詰講習生ヲ募集シ一ヶ月間專ラ實技ヲ本位トスル技術員ノ養成ヲナシタリ修業者左ノ如シ

海部郡十四山村

志 水 順 一

海部郡十四山村

佐 野 敬 一

知多郡豊濱町

橋 本 一 保

知多郡篠島村

吉 戸 卯 兵 衛

全 全

鶴 賀 宮 之 助

全 全

小 久 保 廣 一

全 全

小 久 保 濟

知多郡師崎町

鈴 木 和 夫

全 全

中 村 光 雄

知多郡豊濱町

中 川 榮

(ハ) 養 殖 部

一、鹹水池中養殖試驗

鹹水養魚池ハ大正六年十一月漏水留其他ノ箇所破壊セシニヨリ本年度ニ於テ修繕スベキ豫定ナリシモ種々複雑ナル事情ノ爲實施スルニ至ラザリシヲ以テ只僅カニ第一號及第二號池ノ一部ヲ使用シテ黒鯛、鰯等ヲ粗放的ニ養殖シ收利ヲ計リタリ

二、國庫補助海魚防養試驗

本試驗ハ昨年度ヨリノ繼續試驗ニシテ昨年度ノ試驗成績ニ鑑ミ設備ニ於テ多少改善ヲ施シ大正八年一月六日ヨリ二月二十八日間ニ淡水導入ヲナスコト六回淡水注入ヲナスコト四回海水導入一回淡水海水同時ニ導入ヲ一回試驗セリ試驗池ノ甲ハ水深六尺面積百二十坪乙池ハ水深二尺五寸面積五十坪ヲ有ス飼育水族ノ内真鯛黒鯛等ノ魚類ハ甲池ニ車蝦ハ乙池ニ放養セリ試驗ハ極メテ良好ニシテ大要次ノ如キ結果ヲ得タリ即チ(一)長時間淡水被覆ノ状態ヲ保タシムルニハ池ノ水深五尺以上ナル時ハ最好都合ナルモ三尺以上ノ水深ニテモサシテ困難ナラザルガ如シ(二)二尺内外ノ水深ニテハ淡水被覆ノ状態ナラシムルモ傳導ニヨリ冷温ノ上層水下層ニ沈降シ上下水温ノ差大ナラズ(三)池水ニ淡水ヲ導入スル際其速度ハ甲池ニアリテハ一時間ニ池水高二寸内外ヲ増加スルノ程度トスレバ成績良好ナルガ如シ(四)形成淡水層ノ厚サハ池水ノ十分ノ一以下ナル時ハソレ以上厚キ水層ニ比シ成績劣ルガ如シ(五)方法宜シキヲ得バ上層温度水點下ニ低下スルコトアルモ下層水温ハ放養水族ノ健全ヲ保持スルニ必要ナル水温ヲ有ス上下水温ノ最多較差ハ三度六乃至六度九ニシテ淡水被覆状態ニアル時間ハ百二十四時間乃至百六十五時間ノ長キニ亘ル(六)風ヲ伴ハザル降雨降雪ハ上下水比重ノ較差ヲ幾分増大セシム(七)淡水海水同時導入スル場合ハ池水深三尺以上ナルヲ要ス

三、鹹水池天然餌料蕃殖試驗

試驗ニ供セシ池ハ甲乙二個アリ其ニ面積三十坪水深三尺以上底質泥砂池水ノ比重一、〇二〇内外ナリ甲池ハ施肥シ乙池ハ施肥セス第一回試驗ハ自七月六日至七月三十日間ニシテ第二回試驗ハ自九月四日至九月二十三日間ナリ第一回ハ生蠶蛹煮汁ノ濃厚ナルモノ坪當六百匁ヲ施肥シ後十日ニシテ三百匁ヲ追肥セリ第二回ハ人糞尿ヲ坪當一貫匁ヲ施肥後十三日ニシテ七百匁ヲ追肥セリ結果ハ第一回ハ「オイキーター」「オイヅ」「アニユール」等ノ種類蕃殖シ其分量乙池ノ九倍ニ達シ第二回ハ「アニユール」「シイタロシイラス」「キートセラス」等蕃殖シ分量ハ乙池ノ七倍七ニ上レリ

四、委託試驗

(イ) 海苔養殖委託試驗

幡豆郡寺津村及ヒ平坂村地先ニ適所七千七百坪ヲ撰定シ竹及粗朶篋三千本ヲ立テ試驗セシニ成績良好ナリキ海部郡飛鳥村地先大寶農林部所有地ニ渥美郡牟呂吉田村地先ヨリ種篋三千本ヲ移殖シ試驗セシ結果ハ極メテ良好ナリキ

(ロ) 牡蠣養殖委託試驗

幡豆郡寺津村地先ノ適地六千坪ヲ撰定シ天然發生ノ稚貝ヲ撒養實入ノ試驗中ナリ海部郡飛鳥村地先ノ適所ニ竹篋八千本ヲ立テ稚貝ヲ附着セシメタルニ成績可良ニシテ目下成長度ノ試驗中ナリ

(ハ) 蛤淺網養殖委託試驗

幡豆郡寺津川口ニ於テ一升六百個乃至六百五十個ノ稚貝ヲ一坪三升ノ割合ニテ同川口沖ニ撒養成長試驗實施中ナリ

(ニ) 板市牡蠣養殖委託試驗

昨年同様寶飯郡東部水産組合地先ニ於テ七月及八月ニ介殼石瓦煉瓦等ノ破片ヲ約三十石ヲ投ジ其後稚貝ノ附着ヲ見タルモ赤潮ノ襲來ヲ受ケ全部斃死セリ

五、養殖業實地指導

養殖業實地指導ヲ出願セシ漁業組合及ヒ養殖場ハ合計十數箇所ニ及ビ指導種類ハ海苔、天草、蛤、刺海鼠、黒鯛等ノ養殖ナリ

六、傳習生養成

四月一日傳習生二名入部セシモ家事ノ都合ニヨリ二名共ニ修了スルニ至ラズシテ中途退學セリ

(二) 調査部

一、打瀬網漁業調査

農商務省水産局ヨリ指定ノ方法ニ從ヒ伊勢海三河灣ニ出航シ本漁業ニ關スル諸般ノ調査ヲ遂行シ其結

果ハ其都度水産局ニ報告シタリ

二、伊勢灣海洋調査

農商務省水産局ノ指定ニヨリ毎月一回同灣横斷海洋調査ヲ施行セリ其結果鯨ノ來游ト外海水ノ流入トニ密接ノ關係アルヲ認メタリ

三、魚類特ニ鹹水魚ノ生理遺傳ニ關スル調査

鹹水池中養殖試驗ノ基礎的研究ノ資料タラシムベク歐米ノ魚類生理學界ニ發表サレタル題目ノ文献蒐集ノ爲メ中村研究所員松井佳一氏ニ托シテコレガ調査ヲナセリ

四、あをさニ關スル調査

食用ニ供セラル、あをさノ種類生殖法調査ヲ名倉間一郎氏ニ托シ闡明サレタル所甚ダ多シ

142
45

終

